

2013 年度 第 1 回中国・四国・九州地区協議会GDテーマの概要  
<例>

- テーマ T 1. 経営・事業・R&Dにおける知財活動の効果/影響/重要性をどうアピールすべきか
- \* 知財活動の年度目標は、どのように設定しているか
  - \* その目標を達成するために、どのようにアプローチしているか
  - \* その目標に向けての活動内容と達成度合いをどの様に報告（アピール）すべきか
  - \* 今後、経営／事業／R&DのTOPに対し、アピールしてみたいことは何か
- テーマ T 2. 知財業務の効率化、ITの活用により知財担当者のパフォーマンスを如何に高めるか
- \* 知財業務の効率化について、業務別に定期的にどう点検しているか
  - \* 知財業務について、IT化はどこまで進めることができるか
  - \* 特許事務所の活用による効率化はどのように進めるべきか
  - \* 技術部門が果たすべきもの、知財部門が果たすべきものの線引きはどうあるべきか
- テーマ T 3. 事業競争に活かせる発明の発掘から権利化までの課題とその解決策は
- \* 事業に資する特許とはどのようなものか（過去にそのような特許はあったか）
  - \* 特許の事業への貢献度合いを、どのような尺度で評価し定量化すればよいか
  - \* 強い特許をとる上で出願段階・中間処理段階での課題は何か
  - \* 強い特許をとる上で発明部門や特許事務所とは、どのように連携すべきか
- テーマ T 4. 発明増進に向けて技術部門と知財部門との連携・役割はどうあるべきか
- \* 発明の年間目標数のノルマはあるか、ノルマの設定の考え方は
  - \* 開発成果を確実に特許評価するための連携とは
  - \* 技術開発テーマの設定から終了までの流れに沿って、知財部門はどのような形態で関わっているか、また、今後はどう関わるべきか
  - \* 発明の増産に向けて、どのような仕組みや奨励策を整備するのが好ましいか
- テーマ T 5. 特許情報の効率的な調査分析手法とその成果を経営・技術開発に活かすには
- \* 特許情報の調査ツール（DB）はどのようなものを整備しているか
  - \* 参加者の調査ツール（DB）を比較して優劣はあるかどうか
  - \* 特許情報の調査はどのようにしているか、また、特許情報の分析をどのようにしているか
  - \* 特許情報の調査結果・分析結果はどのように経営／技術開発にフィードバックしているか、その結果は評価されているかどうか
  - \* 今後、経営／技術開発に提供したい特許情報はなにか
- テーマ T 6. グローバルビジネスに資する外国出願の考え方
- \* 新興国への進出に対する外国出願要否をどのように決定しているか
  - \* 外国選定の時に、販売国重視か生産国重視か
  - \* 新興国の法制度を正しく把握するための代理人との連携はどうすべきか
  - \* PCT活用に対するメリットとデメリット
- テーマ T 7. ブランド保護や価値の向上に新しいタイプの商標はどのように寄与するか
- \* 保護対象の拡大に対して、どのようなものが新たに登録できるのか
  - (1) 視覚で認識できる商標  
「動き」の商標、「ホログラム」の商標、「輪郭のない色彩」の商標、  
「位置」の商標とはそれぞれどのようなものか
  - (2) 視覚で認識できない商標…「音」の商標とは
  - \* これらの商標がブランドに寄与するとはどのような例か
- テーマ T 8. 知財担当者の実務スキルを高めるための育成プログラムのあり方
- \* 知財部に配属された新入社員は何年計画で独立した担当者とするべきか
  - \* 社外の講習会・研修会は人財育成に有効か
  - \* 知財検定、弁理士資格を会社としてサポートしているか
  - \* 知財に関する社内の勉強会、研修会はどのようなものがあるか